

西諸県地域の普及活動

令和6年7月
西諸県農林振興局
(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 西諸県地区農業経営指導士会総会及び研修を開催

23日、農業経営指導士8名の出席で総会を開催しました。

昨年度の事業実績及び今年度の事業計画について協議するとともに、普及指導活動計画の総合プロジェクト3課題について検討を行いました。検討会では、新規就農者支援の在り方について指導士同士の積極的な意見交換が行われました。

また、研修会では、普及センターから次期普及計画に向けた取組などの紹介を行いました。

今後は、普及事業推進協議会との合同先進事例調査や、九州・沖縄農業士研修会の積極的な参加により、県内外の指導士同士の交流を深めながら、地域の農業の活性化に向け活動をしていきます。



【普及計画について助言する指導士の方々】

2) 7月期子牛郡品評会が開催

18日に、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和6年7月期子牛郡品評会が開催されました。

7月期子牛セリ市に出荷される雌子牛のうち、市町子牛品評会を経た27頭の出品があり、審査の結果、優等賞に6頭、壺等賞に13頭、式等賞に8頭が選ばれました。

なお、優等賞首席は小林市野尻町のT氏出品の「ながおか638」号(桃白鵬ー勝平正ー糸茂勝)、2席は小林市のN氏出品の「さち」号(耕富士ー美徳国ー忠富士)、3席は高原町の小林秀峰高校出品の「かなで」号(宗守富士ー忠国桜ー美徳国)が受賞されました。

受賞牛は、発育良好で体積豊か、種牛性などが評価されていました。



【優等賞首席 ながおか638号】

※この報告書では、JAみやざきこぼやし地区本部を「JAこぼやし地区」、
JAみやざきえびの市地区本部を「JAえびの市地区」と表記しています。
生産部会名は名称のため、地区の表示がないことがあります。

Ⅱ 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動 (持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

1) 就農相談会を実施

16日、小林市において、きゅうりで就農を目指している方の就農相談に対応しました。

10日、25日、えびの市において、肉用牛繁殖経営を継承する予定の後継者の方の就農相談に対応しました。

今後も関係機関と連携し、各種支援策の活用や認定新規就農者の認定に向けた支援を行う予定です。

※就農相談対応 2名3回(内訳:小林市:施設野菜1名、えびの市:畜産1名)

2) 九州・沖縄地区青年農業者会議でえびの市SAPがプロジェクトを 発表

17日、18日に宮崎市で開催された、九州・沖縄地区青年農業者会議にえびの市SAP会議の立久井友文氏がプロジェクト発表の部に宮崎県代表の1人として出場しました。惜しくも全国大会出場は逃したものの、発表課題のキャベツの根こぶ病対策をわかり易くまとめた発表は九州代表に選出された他の発表にも全く引けを取らないものでした。今回の発表が西諸県地区のSAP会員のお手本として、今後のプロジェクトの取組につなげられるよう支援を行っていきます。



【プロジェクト発表の様子】

3) 農業者セミナーを開催

①アグリ★ベーシックセミナー 第1回、2回、3回目を開催

2日、普及センターで農業者セミナー(アグリ★ベーシックセミナー)を開講しました。第1回目のセミナーは、13名の新規就農者等が参加しました。内容は「普及センターの機能役割についての紹介」、「鳥獣被害対策」、「農業気象」についてで、講師は普及センターが務めました。

また、18日に、第2回目のセミナーを開催し、11名の新規就農者等が参加しました。内容は「収入保険制度」、「農業経営とライフプラン」、「肥料の効果と使い方」についてで、講師は収入保険制度についてはNOSAI宮崎西諸センターが、それ以外は普及センターが務めました。

更に、26日に、第3回目のセミナーを開催し、8名の新規就農者等が参加しました。内容は「農作業安全」についての講義で、県が主催するリカレント研修をオンラインで接続する形で行われました。

新規就農者にとっては、初めて知る内容も多くあり、各講義毎に積極的に質問していました。



【第1回のセミナーの様子】

②アグリ★レベルアップセミナーの第1回目を開催

24日、普及センターで、担い手の経営管理技術の向上を目指した農業経営者育成研修会をオンライン配信で開催しました。

セミナーは、経営理念や雇用管理等をテーマに2名の外部講師を招いて行われました。内容は、経営戦略を立てることの重要性や雇成型経営体が安定経営を目指すためには作業細分化、単純化、労働時間の短縮が大切である等、農業経営者として意識すべきことについての講話でした。

9月には第2回目のアグリ★レベルアップセミナーを開催予定です。



【セミナーを熱心に聞く受講者達】

(未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現)

1) 令和6年度第1回次世代型水田農業推進会議を開催

18日、地域の維持可能な水田営農の実現に向け、関係機関で情報を共有し、地域の課題を検討していくことを目的とした次世代型水田農業推進会議を開催しました。会議では、水田担当者で構成されたワーキンググループの各地区の活動状況や生産者全体交流会の報告、稲わらマッチング等構築連携や水稻作に関する活動についてなど情報共有をおこないました。また、今後の次世代型水田農業推進会議等の活動計画についても説明をおこないました。

今後とも活動を通して関係機関と連携し、地域の水田に対する支援に繋がっていきます。

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

1) さといも肥料比較展示ほの生育調査

17日、高原町のほ場で実施している、肥料コスト削減と省力化を目的としたさといもの肥料比較展示ほ場において、JAこばやしのみ担当者ととともに生育調査を行いました。

この時期のさといもの茎葉は、梅雨明け後の強い日射による高温からさといもを守る役割があります。現在のところ生育は順調で、種芋生産も含めた地域の施肥基準の見直しに役立てていきます。



【さといもの生育状況】

2) サツマイモ基腐病の発生状況調査の実施

23日に、JA、市町担当者と連携して、管内の定点ほ場におけるサツマイモ基腐病の発生状況調査を実施しました。今回の調査でも、全てのほ場でサツマイモ基腐病の発生は確認されませんでした。

今後も、10月までの期間中に、関係機関と連携して調査を実施する計画です。



【基腐病発生状況調査】

3) 畑地の排水性改善に向けた展示ほ調査

5日、22日、26日に高原町祓川の農業生産法人ほ場に設置した畑地の排水性改善に向けた展示ほにおいて、緑肥の各種調査を実施しました。

今回の調査では、農業生産法人の協力のもと、緑肥すき込み前の地上部の生育状況や地下部の根域等について調査を行いました。

今後は、調査結果をとりまとめ、管内で散見される排水不良ほ場における対策資料として活用をしていきます。



【緑肥の根域調査準備】

(スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

1) JAえびの市いちご団地講習会(第3回)

5日、えびの市のいちご団地において、研修生2名を対象とした講習会が開催されました。普及センターからは、①ハウスの構造・附帯設備、②二次親からの採苗の2項目の説明を行いました。また、ほ場に出て育苗状況を確認しながら、これまでの研修の復習を行いました。苗作りも終盤で病害虫の発生が増えてくる時期に入ります。講習会だけでなくほ場巡回でも技術的支援を行っていきます。

2) JAこばやし促成きゅうり土壌消毒調査

16日、JAこばやしきゅうり部会のはほ場において、土壌消毒実施前調査を行いました。管内の土壌消毒は米ぬかを活用した還元消毒や太陽熱消毒が主流となっていますが、今回あらたに深層まで消毒可能な糖含有珪藻土を活用した還元消毒を実施することとなりました。センチュウなどに対しての効果を確認し、普及できる技術かを見極めていきます。



【消毒資材を混和する様子】

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) ぐれ〜ぷ園地巡回

12日、小林市内にてぐれ〜ぷの園地巡回を行い、7園地を巡回しました。今回はJA尾鈴の若手生産者グループVines(バイズ)にも声をかけ、ぐれ〜ぷ8名、JA尾鈴Vines2名、関係機関4名が参加しました。普及センターからは昨年発売されたアブサップ液剤とカメムシ対策の説明、ぐれ〜ぷ園地マップ(2024ver.)の配付を行いました。また、アブサップ液剤の100倍と200倍液を用意し、散布の実演を行いました。

今後も関係機関と連携して支援していきます。



【ぐれ〜ぷ園地巡回】

2) JAこばやしマンゴー部会を支援

① 役員会

4日、JAこばやし三ヶ野山出張所にてJAこばやしマンゴー部会の三役会が開催され、役員9名と関係機関約10名が参加しました。今回は、みどり認定についての説明と産地ビジョン見直しに向けた検討を行いました。

みどり認定は7月中の認定、産地ビジョン見直しは9月完了を目指し、今後も関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【マンゴー部会役員会】

② 東・西・中央支部定例会

16日、17日に小林市内にてJAこばやしマンゴー部会の各支部定例会が開催され、各日程とも約10名が参加しました。今回は、みどり認定の参加の意思確認と担い手確保に向けた対策について説明を行いました。みどり認定はほとんどの部会員の同意を得られましたので、7月中の認定を目指します。

今後も関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【マンゴー部会支部定例会】

(西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

1) JAこばやし花卉部会の総会及び高原町花卉部会と合同で販売会議が開催

4日に、JAこばやし本店において、生産者3名、関係機関6名が参加し、JAこばやし花卉部会の総会が開催されました。いずれの議案も承認され、今期も活発な活動が計画されています。

また、同日に、高原町花卉部会と合同での販売会議が開催されました。生産者8名、各市場担当者6名、関係機関8名が参加し、昨年のキクの販売情勢や8月お盆出荷、今後のキク生産の見通しなどについて意見交換されました。

全国的にもキクの実産者数が減少し、消費量も減っているため、依然として厳しい状況です。管内の実産者も減少していますが、規模拡大を図っている若手生産者中心に今後も栽培面を中心に支援していきます。



【JAこばやし花卉部会の総会】

2) えびの市でラナンキュラス球根生産の反省会を開催

11日に、えびの市のラナンキュラス球根生産者と有限会社綾園芸とともに、昨年作のラナンキュラス球根生産の反省と次作の生産についてミーティングを行いました。

昨年作の反省をふまえて次作は、芽出しの方法及び掘り上げタイミングの検討に注視して作業することになりました。

次作も規模拡大を予定しているため、有限会社綾園芸や関係機関と連携し、ラナンキュラス球根の高品質安定生産に取り組んでいきます。

2 プロジェクト(総合、専門)以外の普及活動

1) 第2回水稻栽培基礎講習会を開催

10日、12日に、普及センター及びJAえびの市大研修室にて、第2回水稻栽培基礎講習会を開催し、当管内の生産者65名が参加しました。

講習会の内容は、水稻栽培における後半の管理(中干し、穂肥、病虫害防除、収穫・調製)や高温対策(水管理)について基礎的な内容を説明しました。

特に、病虫害防除では栽培後半で問題になるいもち病やウンカ類等の初期防除の重要性や対応農薬について説明しました。

今後は講習会の内容を生かし、関係機関との連携を図りながら生産者への支援を実施していきます。



【第2回水稻栽培基礎講習会】

2) JAえびの市露地きゅうり現地検討会

12日、えびの市の露地きゅうりほ場において、JAえびの市きゅうり部会の現地検討会が開催されました。普及センターからは葉面散布と発根剤の効果的な利用方法や、問題となっているカメムシ等による吸汁被害への対応について説明を行いました。

その後ほ場を見ながら、生産者と仕立てや摘心方法について確認を行いました。6月から7月にかけては曇雨天が続く中で気温も高くなり、果実の肥大や樹の生育に影響を及ぼしていました。

8月に入り更に温度が上がってきているので、引き続きこまめな巡回指導を行っていきます。



【きゅうりほ場の様子】

3) JAこばやしゴーヤー品評会

19日、JAこばやし集送センターで、ゴーヤー生産部会の品評会が開催されました。15名の生産者が出品したゴーヤーを観察し、果形や果色を5段階で評価しました。同じ品種でも生産者によって果実のへた周りの形や色の揃い、いぼの形などが異なり、それぞれの作り手のこだわりを感じることができました。



【品評会の様子】

4) 第15回JAこばやしピーマン部会定期総会

23日、小林市内でJAこばやしピーマン部会の定期総会が開催され、振興局からは特別賞の授与を、普及センターからは畑かんの利用と熱中症の注意喚起を行いました。意見交換会付きの総会は5年ぶりで、生産者や関係機関と活発な意見交換が行われました。

物価高騰や長引く天候不順、病虫害の多発生などピーマン生産者にとって厳しい状況が続いていますが、このような状況下でも収量がとれるよう関係機関と連携しながら支援を行っていきます。



【総会の様子】

5) 第2回西諸県営農振興協議会野菜部会技術員会

31日、標記技術員会が普及センターで開催され、品目毎の概況や農薬の効果的な使い方など様々な議題について検討を行いました。また、長引く長雨や高温による管内の被害状況も共有され、今後の対応などについて意見を出し合いました。

その後、小林市で天敵利用を行うピーマンほ場と高原町で肥料試験を行うさといものほ場を視察し、展示ほの状況共有と活発な意見交換が行われました。

引き続き関係機関と管内の状況を共有し合いながら、様々な課題解決に向け取り組んでいきます。



【展示ほ視察の様子】

6) しょうが現地講習会

10日、JAこばやし管内のほ場2か所で、生産者5名が参加し、しょうがの品質・収量増加を目的とした現地講習会が開催されました(5名)。

JA指導員からは、乾燥時に葉が巻く様子がみられ、根が弱いと思われることと、追肥・土寄せ作業を遅れず行うよう注意がなされました。

普及センターからは、小林市の気象データを基にしょうがの基本的な特性を説明しました。また、今年の雨量は積算すると平年値および去年値よりも多く、その降り方は極端で、一週間ほど降雨が無く土壌が乾燥している状態でゲリラ豪雨にみまわれる等乾湿差が大きい。乾燥による根傷みに停滞水による病害感染のリスクが高いため、かん水とともに排水対策にも気を配ることを説明しました。

今後も定期的に巡回講習会が行なわれる予定で、品質の高いしょうがが収穫できるよう、支援を続けていきます。



【しょうが現地講習会の様子】

7) JA えびの市でかぼちゃ栽培講習会の開催

23日、洋種かぼちゃの品質と収量向上のため、JA えびの市で講習会が開催されました（11名）。

かぼちゃの抑制栽培には、JA えびの市で18名が取り組んでいますが、育苗期は気温が高く、収穫期は霜が降りる恐れもあり、難しい作型です。

普及センターからは、栽培マニュアルに沿って、えびの市の気象データを元に、播種から定植までの高温期、および誘引から交配・収穫までの低温期と作業のポイントや注意点について説明を行いました。

今年は8月3～4日に播種を行い、お盆過ぎが定植時期となり、本格的なかぼちゃ栽培が始まります。



【露地抑制かぼちゃ講習会の様子】

8) ピオーネの着色促進剤の散布試験

12日、小林市内にて昨年発売されたアブサップ液剤の散布を営振協展示ほとして行いました。異なる希釈倍率（100倍と200倍）の比較と袋のかけ直しにかかる労働時間の計測を行いました。今後は定期的な着色状況調査と8月末には果実調査を行う予定です。



【アブサップ液剤の散布】

9) 梨のジョイント仕立て・流線型仕立て調査

12日、小林市内にて梨のジョイント仕立て・流線型仕立ての果実数・枝数の調査を行いました。今回は農業大学のインターンシップ生3名とともに調査を行いました。結果は果実数・枝数が単位面積当たり少なめでした。最終的な収量や品質は8月・9月の果実調査を含めた結果で判断します。



【梨ジョイント・流線型調査】

10) 栗の着花状況調査（小林市須木）

2日、小林市須木庁舎担当者と栗着花調査を行いました。2園地で5樹、10結果母枝の着花数を数え、1結果母枝あたりの平均は平年並みとなりました。また、7月30日に行いました生理落果後の着穂調査結果は平年以上の着穂数となりました。



【須木栗着花調査】

11) 西諸県地区果樹技術員会第3回定例会の開催

30日、えびの市、小林市須木にて第3回定例会が開催され、関係機関14名が参加しました。室内会議では、共進会等の検討などを行いました。栗の着実調査はえびの市、小林市須木の4園地で行い、例年以上の着実数が確認できました。また、8月から稼働するJAえびの市栗部会の新しい選果機見学も行いました。次回の技術員会は9月上旬に梨ぶどう食味調査と合わせて行う予定です。

今後も関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【えびの栗選果機見】



【栗着実調査】

12) 今後の果樹政策に関する国（本省・農政局）との意見交換会

30日、普及センターにてリモートで国との意見交換会が開催され、西諸県地域の関係機関5名と農産園芸課1名、国等の職員4名が参加しました。意見交換会では、担い手確保対策の現状や省力樹形、温暖化対策等に関する質疑応答を行いました。

この会では、果樹の課題解決に向けた全国の取組事例を収集できたので、これらを参考にしながら、今後も関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【国との意見交換会】

13) 西諸県地区花き振興会総会及び研修会の開催

11日に、県総合庁舎にて、西諸県地区花き振興会の総会及び研修会が開催され、管内花き生産者14名、関係機関12名が参加しました。

総会では、昨年度実績の苗鉢物や重陽の節句のPRイベントやラナンキュラス特別販売会が報告されました。

研修会では、県内の花屋を経営されている方を講師として、県内の花きの現状と今後の販売展開について講演いただきました。生産者が実需者とが交流する機会がほとんどないため、講師からは交流の重要性などをお話いただきました。講師の方は情報交換会にもご参加いただき、活発に生産者等と情報交換されていました。

花きの情勢は、生産者に限らず、花屋等も含め、依然として厳しい状況となっていますが、振興局やJA、市町などの関係機関と協力して引き続き支援していきます。



【花き技術員会現地検討】

14) 西諸県地区花き技術員会県外視察を開催

25～26日に、営振協花き部会8名で、福岡県の鉢苗物及び花木ほ場3カ所、熊本県の花木ほ場1カ所の現地視察研修を行いました。

- ① 福岡県の鉢苗物生産ほ場では、長い年月をかけて得た技術と人とのつながりで、独自の路線でブランド化することで販売力を強化した経営方法等を視察しました。
 - ② 福岡県の花木ほ場では、ユーカリやスモークツリーを視察し、栽培方法や出荷形態などを勉強しました。
 - ③ 熊本県のパンパスグラスほ場では、栽培方法や出荷形態などを勉強しました。
- 管内ではここ数年、花木類の栽培を新たに始めた方が見られます。管内の気候やほ場条件に適した栽培方法や出荷形態などを整理していく必要があります、今回の視察で他ほ場での状況を学ぶことができました。

今後も引き続き関係機関と連携し、学んだことを活かした支援を実施していきます。



【花き技術員会県外視察研修】

15) 小林市鉢物生産組合県外視察研修を開催

30～31日に、小林市鉢物生産組合員4名、関係機関2名で大分県及び福岡県の観光地、小売店及び鉢苗生産者の現地視察を行いました。

- ① 大分県の花の観光地では、花苗生産の計画などの生産面やデザインなど経営での工夫など高い戦略を立て経営されており、勉強になりました。
- ② 大分県の鉢苗物ほ場では、花苗だけでは経営が厳しく、スギの栽培など他の分野の栽培も実施されておりました。
- ③ 福岡県の市場では、市場の状況等を意見交換できました。
- ④ 福岡県の観葉植物ほ場では、海外を視野に品種の導入や販売を実施しており、他が真似できないような取組をされていました。

今回の視察は、取り入れることが難しい部分もありますが、生産者も良い刺激を受けたようでした。今後も関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【小林市鉢物生産組合県外視察研修】

16) リモコン草刈り機の実演会を実施

1日、高原町の馬登二葉営農組合の管理ほ場において、組合員を対象としたリモコン草刈り機の実演会を行いました。

当日は直前で大雨が降ったものの12名の生産者が参加されました。リモコン草刈り機デモで行われた畦草の草刈りは傾斜作業も含め問題はなく、参加農家の高い関心が伺われたところです。

現状での機械の導入コストは高いですが、補助事業等がかつようすることで、ほ場管理の有用な省力化技術の一つとして、今後、導入検討の余地はあるものと思われま



【実証デモ展示の様子】

17) 高原町集落営農法人連携に係る畦畔管理現地検討会を開催

25日、高原町のハイランドきりしま管理ほ場において、畦畔管理の現地検討会が開催されました。3組織から8名の生産者が参加し、除草剤を活用した畦畔管理の省力化のための実証ほを見てまわり、現時点では十分な効果が発揮されていることが確認されました。また、今年はジャンボタニシが多いなど、集落営農組織間で共通する課題などを参加者同士で協議しました。

今後は、畦畔除草の省力化を見据え、効果の継続性等について、経過を比較していく予定です。



【現地検討会の様子】